

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第182版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中!

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで

f 神家絵本家 聴福庵

育児実践

2歳の息子と室内遊びの出来る施設へ行った際、夢中でプラレールで遊ぶ姿が見られました。休日に自宅で過ごすとき、今年の連日の暑さで屋外で遊ぶのは難しく、室内で遊べる玩具を探していたこともあり、「これは買いたいな!」とすぐに購入を決めました。

遊び終わったら自分で元に戻せたら理想だなと思い、園にあるコーナーのように、見よう見まねで百均グッズやラベルシールを駆使して自宅の環境を整えました。プラレールと片づけボックスをお披露目すると、目を輝かせてレールを繋げ電車を走らせ、毎朝起きるとすぐに遊びはじめるほど夢中になっています。



本誌で何度かご紹介をさせて頂いている「ミマモリング」を活用したオンラインセミナーの先生方の実践報告の中に、保育室に標識などを貼りに自分で交通ルールに興味を湧く環境設定や、地域をより知るために子どもたちと地図作りをする実践事例があったことを思い出し、交通系の玩具には、環境領域の様々な要素が詰まっているのでは!?と思いました。



メルカリで購入!今後どんな道を作れるか楽しみです!

もう少し涼しくなったら、一緒に中央線に乗りに行き、プラレールでも同じ車両を購入しよう!と私自身が楽しくなっています。しかし、先生方からよく伺っている子どもの興味・関心に寄り沿うことや、選択・参画を少しでも取り入れ、息子と一緒に楽しんでいけたらと思っています。(奥山卓矢)

整え合う環境づくり

以前、GTのドイツ保育視察に参加した際に、感情パネルと言う「子どもが自分の今の感情を選択出来るパネル」がありました。その日の夜の勉強会にて、あれは今の自分を振り返ることだったり、自分に気づく時間であったり、相手の気持ちに寄り添えるような環境づくりとして重要視されているのだと藤森先生から教えていただき、なるほど!と驚愕しました。

あれからはや10数年。子どもたちの環境にだけでなく、私たち大人が働く環境の中にもそういった環境を用意する必要を感じています。カグヤでも週に1度の「円対話」という実践環境があります。それが一躍を担っています。それが、それ以外に日常の働きの中に環境づくりが出来ないものかと考え、小さなことからですが、「飲み物」を使った環境づくりに目を向けてみました。

様々な飲み物の中から、「今飲みたいものを飲む」という今までの環境を、「今の自分の感情や状態を自覚する

資料から伝わる

8月の終わりにギビングツリー主催「GTサミット」が行われました。全国の見守る保育実践園の園長・理事長の方々が一堂に会して学び合うセミナーでのお土産として、カグヤの田んぼで育てている「むかしのおこめ」をお配りする機会をいただきました。

例年、お米と一緒に資料もお渡ししていますが、数年前に作成した資料を使用していたため、この機会に刷新することにしました。具体的にどんな内容に刷新するかを考えたとき、こちらの思いを一生懸命伝えることを目的とするのではなく、読む人が「なるほど、それが知りたかった!」と思えるような内容にしたいと考えました。そこで皆さんによく質問される「なぜカグヤがお米を育てているの?」の答えになるような内容を意識し、作成をしました。

実際に「お米づくりをはじめたきっかけ」「お米づくりを通して学んでいること」について書くこととすると、そもそも自分たちはなぜお米作りを始めたのか?どんな志を

お米づくりを通して学んでいること

読者の皆様へは、子どもの姿(顔)を写さるつもりですが、「むかしの田んぼ」ではお米づくりを通して「自然」を体験する。そのためにはお米づくりを通して自然と向き合っていくことが必要です。お米づくりを通して自然と向き合っていくことが必要です。お米づくりを通して自然と向き合っていくことが必要です。

お米作りをはじめたきっかけ

2011年の夏は大雨続きで、「自然に出ることを」を考えた。自然の恵みを感じつつ、自然の中で遊ぶことの一つとして「自然」を通じて自然と向き合っていくことが必要です。お米づくりを通して自然と向き合っていくことが必要です。お米づくりを通して自然と向き合っていくことが必要です。

奇しくも今は全国にお米不足ですね。天候に左右されやすいからこそ、自然の恵みを大切にいただきたいものです。

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

お月見

今年ももう9月となり空が澄んできてお月見シーズンの到来ですね。月見の風習は中国から伝わり、平安貴族が風流な宴を行うようになったのが始まりで、江戸時代には庶民に広がり、実りに感謝しお供え物をするようになったと言われています。

旧暦8月15日にあたる「十五夜」は穀物（お米）だけでなく、芋類の収穫祝い兼ねていることから「芋名月」と呼ぶようになり、もともとは収穫された里芋やさつま芋などの芋類をお供えしましたが、江戸時代の後期になると収穫したお米でつくったお団子もお供えするようになったそうです。

更に、日本では十五夜の後に、粟や豆の収穫を祝う旧暦9月13日の「十三夜」（今年10月15日）、田の神に感謝し翌年の豊作を祈る旧暦10月10日の「十日夜」（今年11月10日）と実りに感謝をする習わしが続きます。こうして十五夜、十三夜、十日夜をみてみると、風情を楽しみただけではなく、収穫と密接な関わりがあることがわかりますね。



昔から十五夜、十三夜、十日夜が晴れてお月見ができると縁起が良いとされています。十五夜にちなんで団子を15個、十三夜では13個お供えします。子どもと一緒に団子を作ってみるのも素敵ですね！



方も多いかと思いますが、せっかくだすからぜひ「お供え」をお忘れなく。お月様に感謝の気持ちや祈りを伝え供えた月見団子を食することで、月神様の力をかけてもらえる昔から信じられています。また、団子に限らずお供えしたものを食べることで、神様との結びつきが強くなり、健康や幸福が訪れるとも。「収穫の秋」とも言われるとおり、続々と収穫の時期を迎えますから、団子ももちろん、秋の収穫物を色々とお供えしていただいて、お月見を十分に味わってみてはいかがでしょうか。

（宮前奈々子）

一期一会庵

暮らしの場づくり

私たちが生きていくなかで受ける影響には直接的なもの間接的なものがあります。直接的な影響は、短期的であり自分にすぐに降りかかるものなどがあります。経済的な損得などは直接的なものばかりです。

しかし間接的なものは長期的であり、自分の子孫の時に降りかかってくるものがあります。原発問題や遺伝子組み換え食品などはほとんど間接的なものです。

科学的にすぐに証明されるものは直接的なものが多く効果が分かりやすく、間接的なものはその逆で複雑ですぐに証明できません。

例えば伝統的な暮らしの食であれば私たちの先祖たちは便利な食べ物よりもお漬物なども長期的な保存食や発酵食を常に食卓に常備していました。

日本では近年、災害が増えて「フェーズフリー」という取り組みが流行ってきています。これは平常時と災害時という社会のフェーズ（時期、状態）を取り払い、普段利用している商品やサービスが災害時に適切に使えるようにする取り組みです。これはそもそも日本人が今までしてきた懐かし

い暮らしを保つていければ自然にできていたことです。

今では添加物や化学調味料などで時短されたものばかりが毎日の食卓にあり、保存食などもなく何か災害があればいきなり食糧危機です。

先祖の方々は時間をかけては「省みて」長い目で観て子孫のためにならぬいものを「省いて」はそれを一つ一つ暮らしの智慧にしていきました。

それだけ祖先たちが長い年月と経験で活かされてきたものを、いつまでも続く懐かしい暮らしを通して代々が伝承してきたことで文化となり、みんなを今をより善く生きてこれたということでしょう。

その懐かしい暮らしの基本は、すべて子孫たちのため、そして長期的で広い視野に軸足が置かれたものばかりでした。だからこそ、今からでも私たちは暮らしを見つめ直しこの先の子孫たちのために「暮らしの場づくり」が必要になる気がしています。

そして、私たちが取り組み保育は、まさに人類の智慧の結晶、暮らしの場づくりをしているところではないかと改めて感じます。

誇らしく有難いお仕事に感謝しつつ、直接的にだけでなく間接的にも大切なものを、カグヤはこれからも暮らしの場づくりを通して譲り遺していきたいと思えます。

（野見山広明）

編集後記



まだ投業中ですが、空や風を感じたり、ご飯のおいしさを感じたりと幸せです。

約3週間寝込み続ける病を患いました（現在は快方）。発熱でうなされ続け、精密検査を繰り返しても何の病かが分からず、3週間で9キロの体重が落ち続ける日々。命の危機を感じました。次の検査結果を聞く際は最悪の事態を想定しました。「死」は誰しもに必ず訪

れるもの。無常を感じつつも、その無常を跳ね飛ばす強い理由で「今は死ねない」と心の奥底から芽生えるものが湧き出てきました。「生きる理由」と「死ねない理由」、自分の命を支える存在が2つに増えたことは、今後の大きな支えとなりそうです。

（眞田海）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

